

びわこ東海道 景観基本計画(案)

近江八景と東海道でつながる大津市と草津市の景観づくり



大津市 × 草津市



序章

1

- 1 はじめに
- 2 びわこ東海道景観基本計画の背景と目的
 - ①背景
 - ②目的
 - ③位置付け
- 3 連携項目とその対象区域
 - ①連携項目
 - ②対象区域

魅力ある対岸景観の形成について

6

- 1 現況
 - ①対岸景観全体の景観
 - ②「対岸眺望ポイント」から観た主な景観
- 2 対岸景観の魅力と課題
 - ①対岸景観の魅力
 - ②対岸景観の問題点
 - ③対岸景観の魅力向上のための課題
- 3 対岸景観形成の目標と目標像
 - ①対岸景観形成の目標
 - ②対岸景観形成の目標像
- 4 対岸景観形成の方針

東海道沿道のつながりある景観形成について

15

- 1 現況
 - ①東海道沿道全体の景観
 - ②宿場町の景観
- 2 東海道沿道の景観の魅力と課題
 - ①東海道沿道の景観の魅力
 - ②東海道沿道の問題点
 - ③東海道沿道の景観形成の課題
- 3 東海道沿道の景観形成の目標と目標像
 - ①東海道沿道の景観形成の目標
 - ②東海道沿道の景観形成の目標像
- 4 東海道沿道の景観形成の方針

屋外広告物による景観形成について

22

- 1 現況
 - ①両市域での屋外広告物の現状について
 - ②屋外広告物の規制状況について
- 2 屋外広告物による景観形成の問題点と課題
 - ①屋外広告物による景観形成の問題点
 - ②屋外広告物による景観形成の課題
- 3 屋外広告物による景観形成の目標と目標像
 - ①屋外広告物による景観形成の目標
 - ②屋外広告物による景観形成の目標像
- 4 屋外広告物による景観形成の方針

パートナーシップによる景観形成の推進について

27

- 1 基本的な考え方
- 2 主体別役割
 - ①市民の役割
 - ②事業者の役割
 - ③行政の役割

参考資料

28

近江八景

序章

1 はじめに

景観と聞くと、目の前の雄大な琵琶湖や美しい山並み、きれいに整った街並みを思い浮かべる人もいれば、日常から少し遠いイメージを持つ人もいるでしょう。

しかし、景観は、琵琶湖や背景の山並みはもちろんのこと、公園や道路、公共施設はもとより、個人の敷地内に立つ建物の外観、門、塀、庭など、私たちの身近にあり、日常生活で目にするもの全てが構成要素となります。

そして、湖岸沿いでのサイクリングやマラソン、大津祭・草津宿場まつりなどに代表されるお祭りのにぎわい、湖面を華やかに彩る花火など、人びとの暮らしや営みもまた、景観に欠かせない要素です。

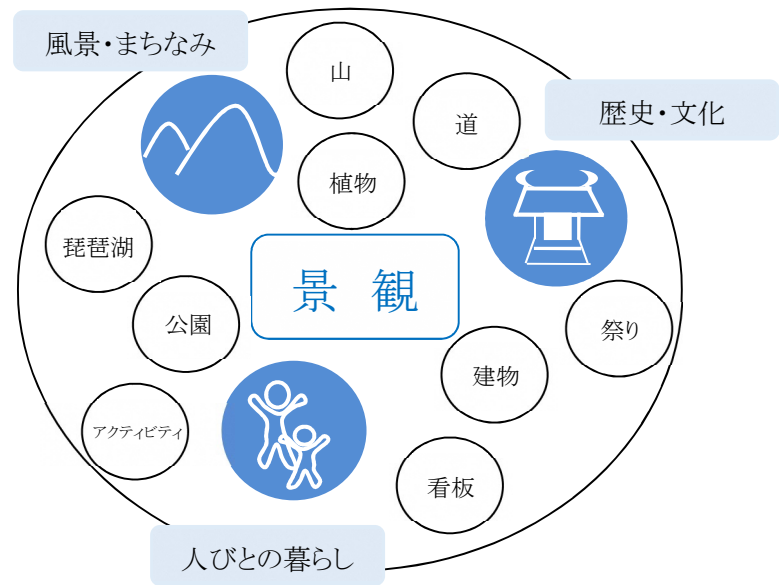
つまり景観とは、建物や看板、植物の緑など、日ごろ私たちが目にしているまちの様子や風景と、そこにある人びとの暮らしにより育まれた歴史や文化が織りなすものになります。

大津市と草津市(以下「両市」という。)は、悠久の歴史の中で、美しい山並みに抱かれながら、雄大な琵琶湖を眺めてともに栄えてきました。しかし、未来より預かっているとも言うべき両市の景観は、私たちの選択次第で、周辺との調和や地域の個性を損なう恐れもあるのです。

そこで、両市民が手を結び、一人ひとりが景観づくりの担い手としての役割を果たしながら、先人より受け継がれてきた魅力ある景観を維持し、新たに創出する美しい景観とともに未来へ手渡すため、この度両市でびわこ東海道景観基本計画を策定しました。

令和3年〇月

大津市長 佐藤 健司
草津市長 橋川 渉



2 びわこ東海道景観基本計画の背景と目的

① 背景

中国湖南省にある洞庭湖(どうていこ)付近の名勝・瀟湘(しょうしょう)八景に見立てられ選んだと伝えられる『近江八景』(※1)は、両市に「ゆかり」があり、古くから湖国を代表する名勝として知られていました。

江戸時代には、多くの美術工芸品のテーマとなり、『東海道五十三次』で有名な浮世絵師歌川広重によって描かれたことで、広く全国に知られるようになりました。

両市は、東海道の宿場町「草津宿」、「大津宿」としてともに栄えたまちであり、さらに室町時代の連歌師宗長の詠んだ「もののふの矢橋の船は速けれど 急がば回れ 瀬田の長橋」に由来する、「急がば回れ」のことわざでも「縁」があるまちでもあります。このことわざにあるように、両市は東海道に限らず、琵琶湖上の舟運でも切っても切り離せない関係にあったのです。

両市は、それぞれ大津市景観計画(平成18年施行)、草津市景観計画(平成24年施行)により、美しいまちづくりを目指して様々な景観形成の取り組みを進めてきました。こうした中、平成22年4月、大津草津景観連絡会議の開催を皮切りに、連携協力して景観に関する施策に取り組み、平成25年11月には、「びわこ大津草津景観宣言」を行うとともに、地方自治法に基づく「びわこ大津草津景観推進協議会」を設立しました。

びわこ大津草津景観宣言

琵琶湖南岸の大津と草津は隣どうし、「いそがばまわれ」のことわざを生んだ旧東海道と宿場町などの歴史文化、そして「近江八景」に象徴される景観でつながっています。

両市はともに琵琶湖のさざなみをながめ、四季や一日の移ろいが美しく映えるやまなみや田園など、互いに眺望しあう関係にあります。それぞれの市民が潤いと安らぎのある自然の中で生活をいとなみ、歴史あるまちなみに親しみ、にぎわいのある都市の景観を築いています。

両市の市民が手を結ぶことで、良好な景観資産を維持し、新たに創出した美しい景観もども、次世代へ手わたすことができます。

わたしたちは、大津市民・草津市民が互いに協力し、価値の高い景観の保全と新たな創造に取り組み、いっそう愛着と魅力あるものとして未来につなげていくことを、共同でここに宣言します。

平成25年11月2日

大津市長

草津市長

▲びわ湖大津草津景観宣言文

(※1)近江八景 日本の近江国(現・滋賀県)にみられる優れた風景から選ばれた8つの景勝地のこと。浮世絵師の歌川広重の風景画より広く知られるようになった。(28ページ参照)

びわこ大津草津景観推進協議会では、景観宣言を踏まえ「対岸眺望景観(※2)の保全」「東海道沿道の連続性ある景観形成」「屋外広告物の統一した規制誘導」を連携の三本柱として、広域的な景観づくりに取り組んできました。令和元年5月に市民・事業者・行政の三者協働で景観づくりを進めていくために、様々な立場の関係者で構成する「びわこ東海道景観協議会」を設立し、より一層、両市における景観連携を深めています。

そこで両市における、より一層の景観連携の推進のため、地方自治法に基づく両市共同の「びわこ東海道景観基本計画(以下「本計画」という。)」を策定しました。

今後、両市は本計画に基づき、近江八景と東海道を介して結びついてきた歴史や文化を踏まえ、現在のまちづくりの状況、さらにはまちづくり団体や市民レベルでの連携等を重視しながら、魅力ある景観を守り、つくり、将来の市民に継承していきます。

●当時の東海道宿場町の様子(左:草津宿、右:大津宿)



歌川広重「東海道五十三次之内 草津(保永堂版)」



歌川広重「木曾海道六拾九次大津之図」(※3)

(※2) 対岸眺望景観 互いに琵琶湖を挟んで眺望できる景色。琵琶湖の広がりや背景の山並みを一体的に認識することができる。

(※3) 東海道とも重複しており、当時の大津宿の様子が描かれている。「木曾海道六拾九次」については「東海道五十三次」と合わせて歌川広重の二大街道絵ともいわれる。

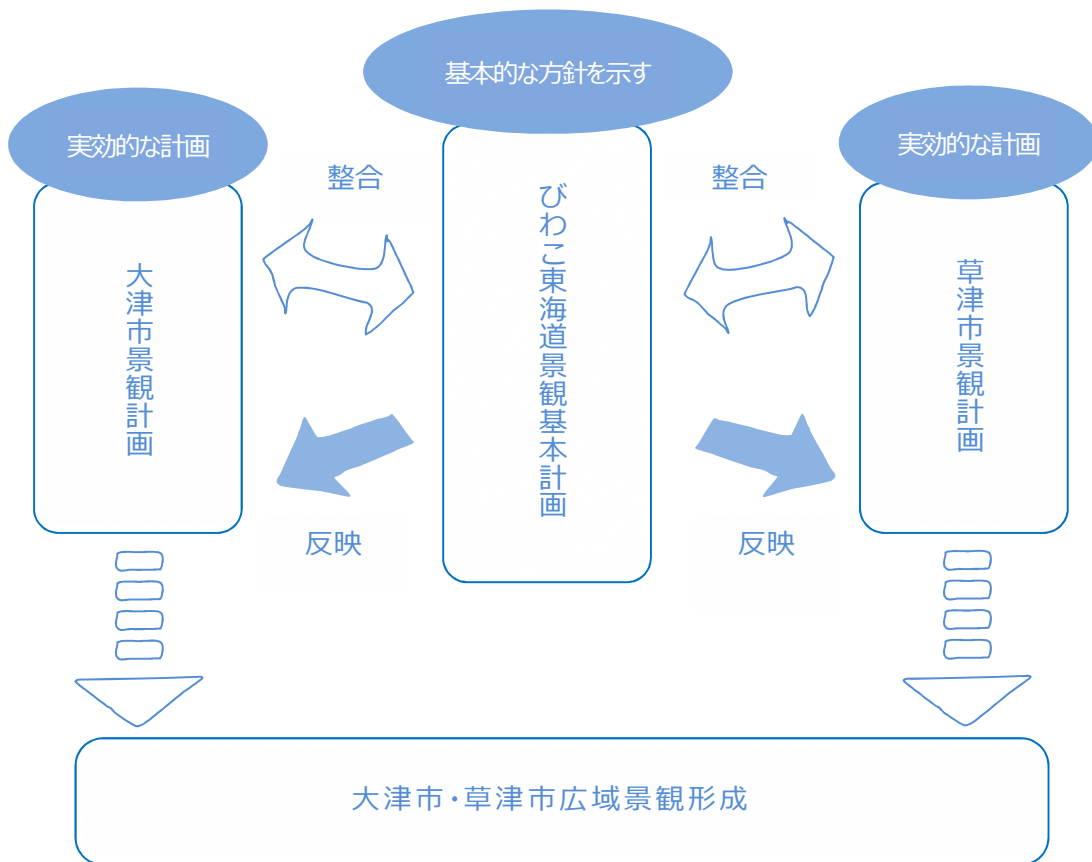
② 目的

本計画は、両市が広域的な観点から良好な景観資産を保全し、創造するために、目指すべき景観形成の目標とその実現に向けた基本的な方針を定めることにより、景観の形成を進めるとともに、いっそう愛着と魅力あるものとして未来に継承することを目的とします。

③ 位置付け

本計画は、両市が広域的な観点から良好な景観保全、形成を図り、並びに景観を活かした魅力あるまちづくりを推進するための方向性を示した、基本的かつ総合的な計画です。

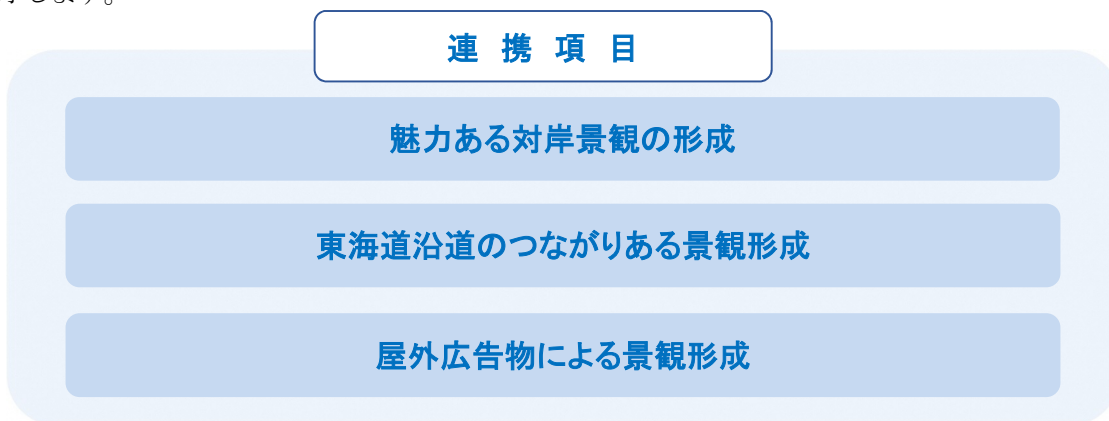
今後、本計画の内容は、両市の広域景観形成に向けた、景観計画の見直しを行う中で反映していきます。



3 連携項目とその対象区域

①連携項目

本計画では、琵琶湖、東海道、近江八景のつながりを踏まえて、両市が連携する項目を次のように示します。



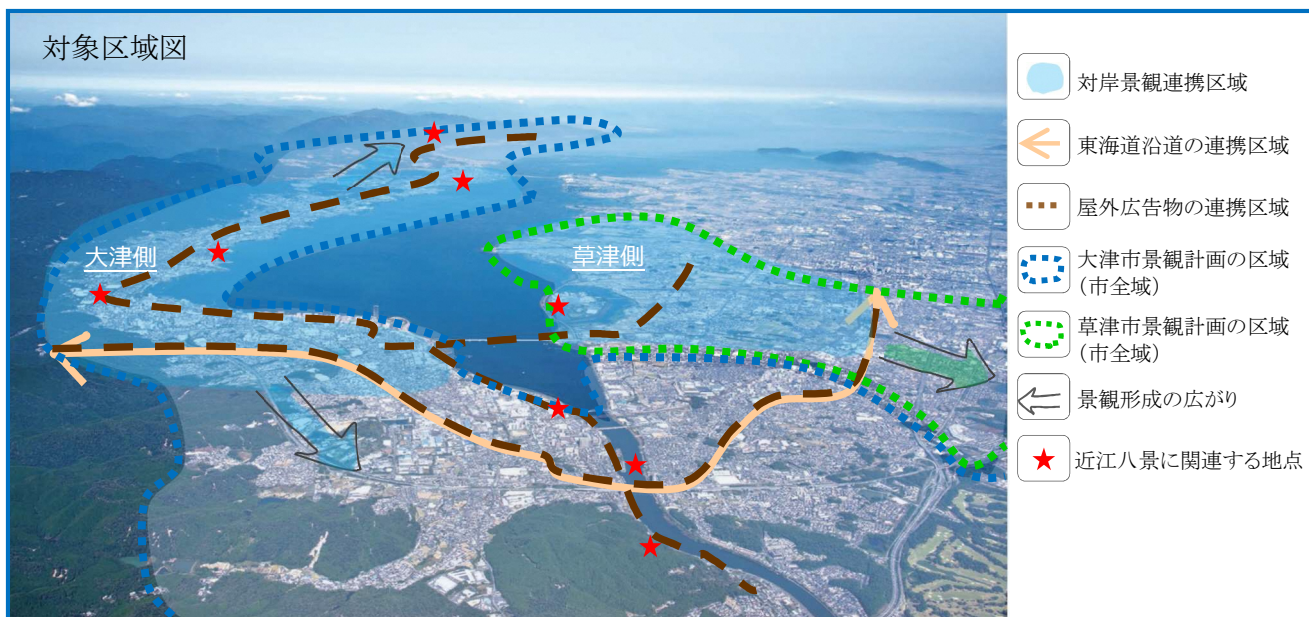
②対象区域

本計画では、両市の3つの連携項目の対象区域を以下の通りとします。

互いに琵琶湖を挟んで眺望しあう関係を重視した、琵琶湖に面する地域を両市で共有の財産とし、琵琶湖の広がりや背景の山並みを一体的に認識することができる区域を『対岸景観連携区域』とします。

両市を結ぶ東海道は、町家や本陣跡、道標などが数多く残っており、歴史の風情を感じながらつながりを意識していく区域を『東海道沿道の連携区域』とします。

両市を結ぶ幹線道路は、沿道のにぎわいを演出している屋外広告物が数多く掲出されており、沿道景観との調和や地域らしさを意識していく区域を『屋外広告物の連携区域』とします。



魅力ある対岸景観の形成について

1 現況

① 対岸景観全体の景観

両市は、それぞれ眼前に広がる琵琶湖の広大な水面、水面に対峙するまちなみ、季節により表情を変える山並みなど、豊かな水と緑に囲まれて歴史と文化を積み重ねてきました。

そうした長い歴史の中で、雄大かつ豊かな自然環境の上に都市景観と田園景観とがつくりだされ、培われてきました。それぞれが互いに共存し、調和することにより、優れた景観が形成され、今日においても青い空と湖の広がりを感じることができます。

このような水と緑の大景観・歴史景観は、両市にとって、時代を越えても変わらない、かけがえのない貴重な財産なのです。



② 「対岸眺望ポイント」から観た主な景観

両市では、互いに眺望しあう「見る」「見られる」関係を重視し、対岸景観の素晴らしさを広く知ってもらい、両市の景観保全や景観形成に対する意識の高揚を図るため、4つの「対岸眺望ポイント」を設定しています。

これらのポイントは、古くから多くの人びとに親しまれてきた、『近江八景』を大切にしたい景観づくりという観点を、最も重要視すべき事項とし、加えて、滋賀県での広域景観保全の取り組みとの関連性、「くさつ景観百選」や大津市景観計画における重要眺望点など歴史及び対岸を眺めたときの眺望性といったことを考慮して、平成28年に選定しました。

大津市・草津市の対岸眺望ポイント

■ ①唐崎神社

近江八景のひとつである「唐崎夜雨」^{からさきのやう}にゆかりの場所。広い範囲に眺望が開けており、ほぼ草津市域の湖岸部全体が見渡せます。

境内から松越しに眺める雄大なびわ湖は絶景です。

[JR唐崎駅から徒歩10分]



■ ②びわ湖大津館

旧琵琶湖ホテルをリニューアル活用した文化施設。「びわこ大津草津景観宣言」の調印式が行われるなど、大津市・草津市に関係の深い場所です。

また、大津市指定有形文化財に登録され、大津市景観計画における重要眺望点にも位置づけられています。

[JR大津駅、京阪びわ湖浜大津駅から江若バス「柳が崎」下車 徒歩3分]



■ ③矢橋帰帆島

■ ③矢橋帰帆島

近江八景のひとつ「矢橋帰帆」^{やばせのきはん}が名前の由来となった人工島。島ができる以前、かつての港があった矢橋公園には、矢橋港石積突堤が今も残され、歴史に想いを馳せることができます。

[JR南草津駅から車で13分]



湖上から矢橋を目指すための目印とされていたイチョウ
推定樹齢 250 年

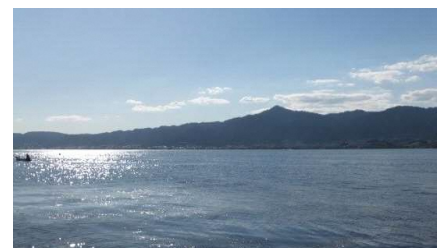


■ ④烏丸半島

■ ④烏丸半島

琵琶湖博物館や水生植物公園みずの森などがあり、烏丸半島内では様々なイベントも開催されるなど、多くの人が集まる場所。草津市内の良好な景観を集めた「くさつ景観百選」にも認定されています。

[JR草津駅から近江鉄道バス「琵琶湖博物館」下車すぐ]



大切にしていきたい対岸の景観は、「対岸眺望ポイント」からのものだけではありません。一人ひとりが暮らしの中で、折々に親しんでいる魅力ある眺めは数多くあります。それらを守るためにも、まずはこれらのポイントから両市の景観を整理します。

「対岸眺望ポイント」からの主要な景観は次のようになります。

- 大津市側・草津市側ともに、対岸眺望ポイントが湖岸に近く、雄大な琵琶湖を感じることができます。
- 湖上を行き交う船やヨットがダイナミックに目に映り、琵琶湖ならではの眺めといえます。
- 背景となっている緑の山並みが大きな景観要素となっています。大津市側は全体的に高い山並みが連続し、草津市側はまちなみの背景にそびえる近江富士と称される三上山の緑が特徴的です。
- 四季折々に多彩な表情を見せてくれる風景は、訪れるたびに見る者を魅了します。
- 日本最大の湖、琵琶湖の一日は草津市側から昇る朝日からはじまります。三上山と朝日の風景は、太古の昔から続く、時の流れを感じることができます。
- 草津市側から眺める雄大な琵琶湖と夕景に映える比叡山の美しい稜線は、時を忘れるほどの絶景です。
- 「対岸眺望ポイント」から見る景観には、夕暮れ時や夜に美しい印象をもたらすところもあります。大津市側の高層ビルの夜景は、暮らしや営みを感じることのできる都市景観であり、人と琵琶湖が共生してきた歴史が魅力的な眺めをつくりだしています。
- 草津市側の湖岸は、大津市側とは対照的に、たくさんの自然が残されており、背景の山並みと琵琶湖の水面の美しさが際立ってみえます。



湖岸の釣り人たち



背景の山並み



夏のびわ湖大花火大会



冬の雪景色



夕景に映える比叡山



高層ビルの夜景



自然が残されている景色

2 対岸景観の魅力と課題

① 対岸景観の魅力

両市の対岸景観の魅力は、なんといっても目の前に広がる雄大な琵琶湖と、四季折々の表情を楽しむことができる、背景の山並みです。大津市側から対岸の草津市を眺めると、背景には近江富士と称される三上山と、彼方には湖南アルプス(太神山、矢筈ヶ岳、笹間ヶ岳)が一望できます。草津市側から対岸の大津市を眺めると、背景には標高の高い比良山系(比良山、比叡山、音羽山)が圧倒的な存在感を放っています。

これらの豊かな緑に抱かれながら、青い空と湖の広がりを感じることができます。

また、その広がりの中で、暮らしや営みを感じることができる都市景観と、のどかな田園景観が築かれています。湖上の船やヨットなど動きのある景観も、かつて湖上交通の港町であった時代から、水と暮らし、水と憩う人びとのにぎわいが、対岸景観をより魅力的にしています。



歌川広重 近江八景より『矢橋帰帆(保永堂版)』
やばせのきはん

② 対岸景観の問題点

両市の対岸景観には、たくさんの魅力がある一方で、次のような問題点があります。

- 人びとの暮らしや営みを感じるまちなみですが、建物の高さや色彩、デザイン等、背景の山並みや琵琶湖との調和が取れていないところがあります。
- 夕暮れ時や夜には美しい印象をもたらす中高層建築物も、琵琶湖の水際では、景観に大きな影響を与えるため、場合によっては眺望の魅力を損なう恐れがあります。
- 対岸眺望ポイントを中心に、湖岸には美しい対岸景観を眺めることのできる場所がたくさんありますが、それに対する周知・啓発が不十分であり、対岸景観の魅力に気づけるきっかけとして、活かされていません。

③ 対岸景観の魅力向上のための課題

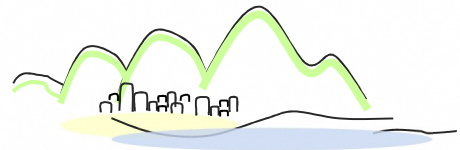
対岸景観の魅力や問題点を踏まえて考慮すべき課題を、次のように整理します。

琵琶湖の対岸景観の保全

目の前に広がる雄大な琵琶湖は、対岸景観の最大の魅力です。青い空と湖の広がり
は開放感にあふれ、湖岸の風にふれると、人びとは心を癒されます。

また、背景の山並みも両市の対岸景観の大きな構成要素となっています。

現在の対岸景観の魅力をつくりだす大きな構成要素である、これら琵琶湖と山並みの
一体的な眺望を守っていくことが必要です。

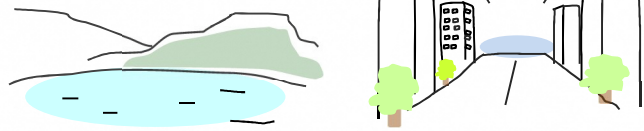


自然と調和のとれた都市景観と、魅力ある対岸景観

両市は今日まで、雄大な琵琶湖と背景の山並みという豊かな自然に抱かれながら、そ
れぞれの場所において、個性と魅力あるまちなみを築いてきました。日本最大である湖の
広がりある景観を、未来へ継承する責任は重大です。

これらの自然と調和のとれた都市景観を意識しながら、より魅力ある対岸景観へと高め
ていく必要があります。

また、建物のデザインだけでなく、建物の間や折々に見える湖への抜ける眺望も配
慮しながら、より魅力あるまちなみにしていくことが必要です。



魅力ある対岸景観の周知・啓発

両市の対岸景観の軸となる「対岸眺望ポイント」や、それに続く対岸を眺められる場所
もまた、対岸景観の重要な要素です。魅力ある水辺に人びとが憩い、またアクティビティ
などを楽しむ様子は、動きのある景観として、両市の個性とにぎわいのある魅力的な眺望
につながります。

両市の景観保全や景観形成に対する意識を高めるため、両市の市民が対岸を眺めら
れる場所の素晴らしさを知り、その魅力に気づくことが大切です。



3 対岸景観形成の目標と目標像

① 対岸景観形成の目標

魅力ある対岸景観を未来に継承するよう、これから両市が目指す対岸景観形成の目標を次のように定めます。

目標

湖国の暮らしと一体となった対岸景観を守り、より魅力ある景観を創造する

両市の景観の魅力である雄大な琵琶湖と背景の山並みとともに、人びとは暮らし、営み、歴史を積み重ねてきました。

今日ある美しい対岸景観は、その琵琶湖や背景の山並みなどの個性ある景観要素と、人びとの暮らしが一体となって、その魅力をつくりだしています。

時代を越えて変わらない対岸景観の美しさを守り、この場所で人びとがいきいきと暮らしながら、より魅力が活かされた景観を創造していくことが重要です。

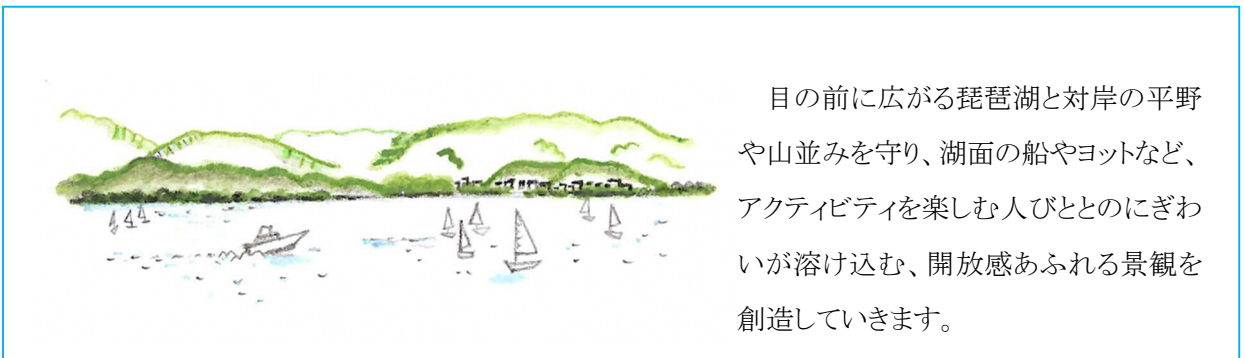
② 対岸景観形成の目標像

対岸眺望ポイントからの見え方など、対岸景観形成の目標像を次のように示します。

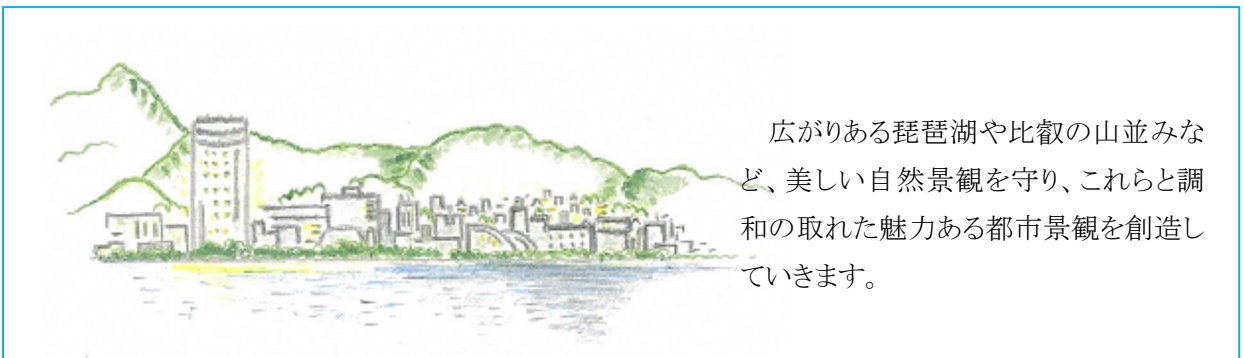
① 唐崎神社からの眺望



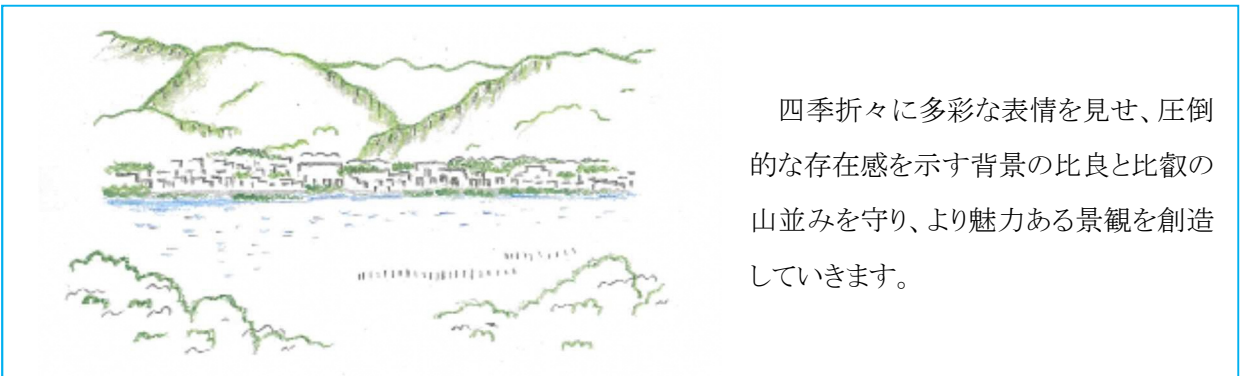
② びわ湖大津館からの眺望



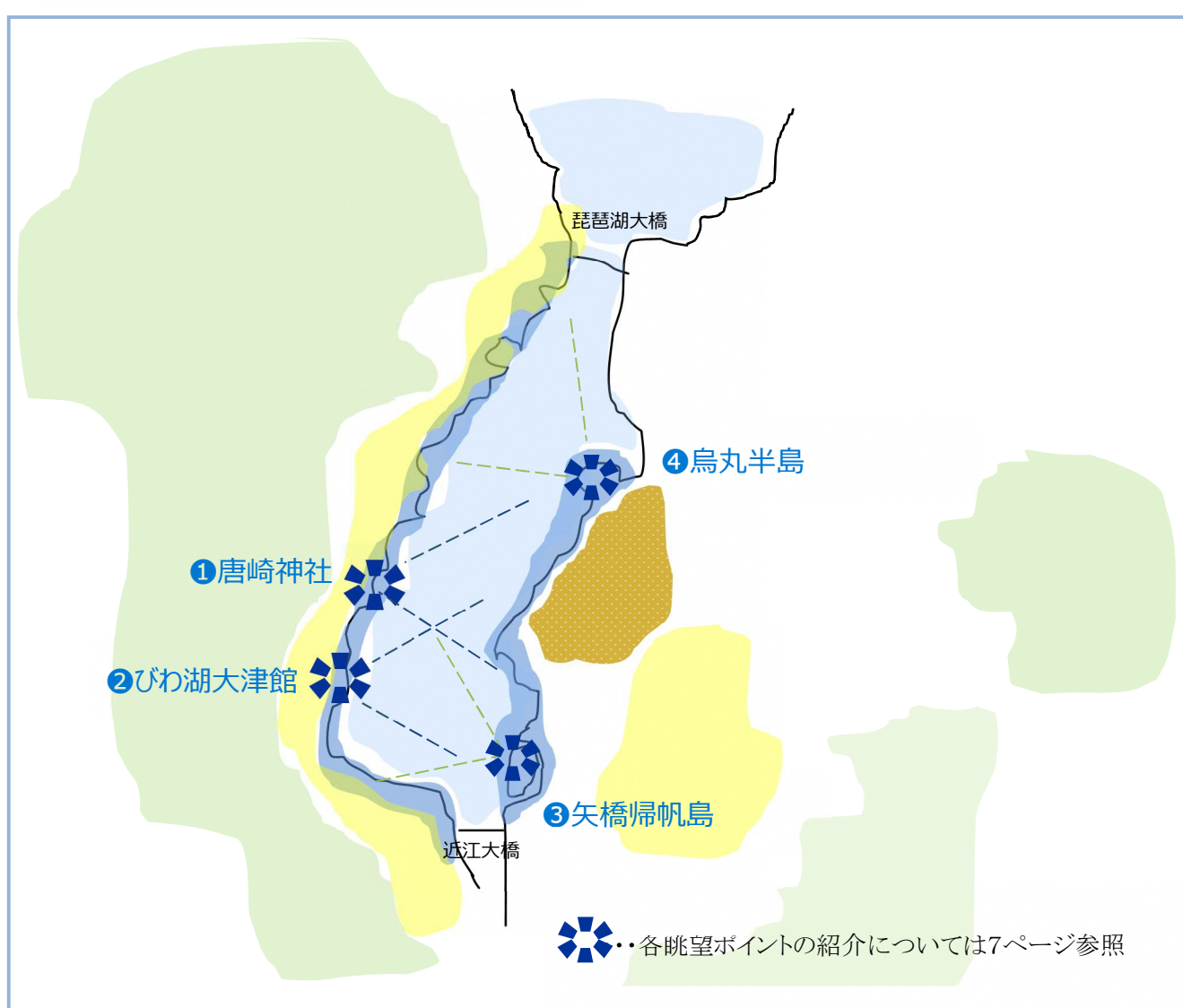
③ 矢橋帰帆島からの眺望







④ 烏丸半島からの眺望



■ 対岸眺望ポイントを拠点とした、両市のゾーン図



-  湖岸ゾーン
対岸景観に配慮した、水辺の景観を守り、創造するゾーン
-  まちのゾーン
対岸景観に配慮した、調和の取れたにぎわいのあるまちなみ景観を守り、創造するゾーン
-  田園ゾーン
のどかで広がりのある田園景観を守り、創造するゾーン
-  山のゾーン
対岸景観を構成する背景の山並みのゾーン

4 対岸景観形成の方針

対岸眺望ポイントを活かした、対岸景観の保全、創造の方針を次のように定めます。

方針

1

両市が互いを尊重し、自然と調和のとれた対岸景観の保全

両市の市民が手を結び、お互いの見え方を考慮して、景観誘導を検討し、雄大な琵琶湖と豊かな山並みが一体となって形成する対岸景観を守り育てます。

また、「対岸眺望ポイント」や、それに続く対岸を眺められる場所の積極的な周知・啓発により、その素晴らしさを知ってもらい、対岸景観の魅力をより感じていただく事で、両市の景観保全や景観形成に対する意識の高揚を図っていきます。

方針

2

「対岸眺望ポイント」を活かした、魅力ある対岸景観の創造

「対岸眺望ポイント」を活かしながら、両市の対岸の2つのまちなみを景観誘導することで、自然と調和のとれた都市景観により、魅力ある対岸景観を創造していきます。互いのまちなみの魅力を高め合いながら、美しい対岸景観を形成し、次の世代に継承していきます。